岩手県豪雨災害(H250809)活動報告　(H250815～0818)

繋(つなぎ)地区 御所湖(ごしょこ)

大気不安定による大雨
(気象庁発表記事より)

8月9日、北日本では、日本海から湿った空気が流れ込み大気の状態が非常に不安定になり、秋田県・岩手県を中心に記録的な大雨となった。
8月9日　0時から10日24時までに観測された最大1時間降水量が、秋田県鹿角市鹿角(ｶﾂﾞﾉ)では108.5ミリ、岩手県雫石町雫石(ｼｽﾞｸｲｼ)では78.0ミリとなった。

つなぎ大橋の交差点に「つなぎサテライト」があり、屋外のテントで受付け。熱い一日の始まりです。

今日の作業の打合せ? ミーティング?

各地から集結した、かわいキャンプOBの面々

※かわいキャンプOBの強みは、細かく言わなくてもそれぞれが最大限の仕事をしてくれるところ。

繋（つなぎ）地区　御所湖の被災状況

繋温泉側から見た御所湖。ちょっと解りづらいのですが、御所湖全体が泥の湖と化し、流木などで埋め尽くされています。

右の橋は「つなぎ大橋」です。

8月9日～10日の豪雨により土砂が大量に流れ出し、湖を埋め尽くしています。陸地に見える部分は、もともと湖です。

山側の土砂の流出により、湖が陸地化してしまっている。

御所湖に流れる川の色の変化。湖側はまだ濁りが激しく、入り江部分は流木等で埋め尽くされています。

繋(つなぎ)地区　温泉街の被災状況

壁の跡を見れば、床上1m付近まで浸水したことが伺える。

つなぎ地区は古くからの温泉街のため、建物が密集した状況にあります。さらに地形も緩い窪地になっているため、水が抜けにくく密集した建物により土砂やガレキが集まり、場所によっては50cm以上の泥が溜まっている状況です。
わかり易く例えるなら、田んぼで足を取られて抜け出せない状態です。

上記の現場に入ったのが被災から4～5日の時でしたが、泥はまだ水分の含有量が多く、土のう袋に詰めれば水がジワジワと浸み出してくる状況なので、非常に重い泥です。追い打ちをかけるように連日の猛暑、しかも建物が密集しているため風の通りも悪く、数字以上に湿った暑い現場となりました。熱中症に最大限の注意を払います。

車道と歩道の泥の撤去は済みましたが、駐車場・庭の泥はまだまだです。左の写真を見れば分かりますが、30cm以上の泥が手つかずのままです。